

大学生活とキャリアデザイン

「行動特性」とは

P.78からの「力」はすべて、将来社会で必要となる能力であるとともに、学生時代に伸ばすことのできる能力だ。

自分の今の力を知ること、これらの力を意識して過ごすことにより、授業やゼミの中でも課外活動の中でも自分の力を発揮していくことを心がけよう。

これを読んでいる今、自分がそれぞれの項目についてどの程度の力があると感じているか、次ページからの表で確認しよう。

「コンピテンシー」とは社会で活躍できる力

「コンピテンシー」は、「コミュニケーション力」「問題解決力」など、社会で成果を上げることに必要な要素で構成されます。構成要素に統一的な基準はなく、「コンピテンシー」を活用して人材育成に取り組む組織が、組織目標や求める人材像などを考慮して設定するのが通例です。

中央大学では、建学の精神である「實地應用ノ素ヲ養フ」に基づき、大学卒業後も社会的・職業的自立を図るために必要な能力として、「知性（専門知識・技術）」×「行動特性（コンピテンシー）」を掲げ、またコンピテンシーの評価軸として、P.78から掲載した7カテゴリー31キーワードを設定しています。さらに、各項目ごとにレベル0からレベル5まで段階分けした評価基準を設けています。理工学部ではこれに学科別の「専門性」という分野が加わります。

この段階別評価基準は、社会で求められる力を明示しており、能力を自己評価する上での「見取り図」となっています。

授業科目や課外行事等を通じて、専門的知識・技術の向上と合わせて、それぞれのコンピテンシー項目の向上を図ることが重要です。

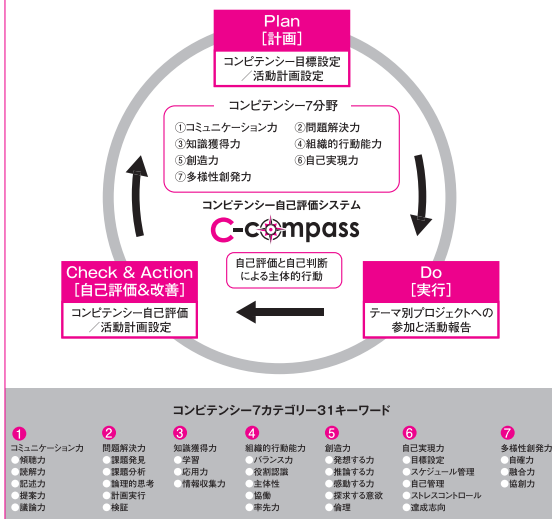
コンピテンシーと中大版テーマ別プロジェクト

さらに中央大学では、社会で求められる「知性」と「行動特性」を高める取組みとして、特定のテーマごとに大学での授業科目や課外行事をグループ化した「プロジェクト」を設定しています。現在は16テーマ約210の取組みを設定（2019年1月現在）。例えば「インターンシッププロジェクト」では、各学部の授業科目や、課外の取組みなど、19の取組みを設置しています。

また、「プロジェクト」はコンピテンシーと結びつけられており、コンピテンシーを向上するための取組みとして、役立てることができます。各プロジェクトの取組みについては、「取組みを行い、〇〇の行動ができるようになれば（〇〇を体得すれば）、△△のコンピテンシー項目がレベル□に向上したといえる」というように、コンピテンシー項目と結びつけた設定をしています。例えば、「傾聴力」を高めたいという目標を設定した場合、「傾聴力」に結びついた取組みを選択し、該当する授業や課外行事に参加することで、コンピテンシーを向上させることができます。

■『「知性×行動特性」学修プログラム』の全体像

学生は、プログラムを通して大学卒業後に社会的自立を図るために必要な能力の向上を目指しています。



コンピテンシーを伸ばすための具体的な取組みとして、関連する授業科目と課外講座・行事を特定テーマ毎に構成した「テーマ別プロジェクト」を設定し、全学レベルでの体系的な取組みを行っています。

○テーマ別プロジェクト
16テーマ約210の取組みを設定（2019年1月現在）

学部教育プロジェクト （法学部）	グローバルプロジェクト
学部教育プロジェクト （経済学部）	グローバルプロジェクト （留学生対象）
学部教育プロジェクト （商学部）	キャリア教育プロジェクト
学部教育プロジェクト （理工学部）	インターンシッププロジェクト
学部教育プロジェクト （文学部）	社会・地域貢献プロジェクト
学部教育プロジェクト （総合政策学部）	職業養成プロジェクト （公務員）
大学院教育プロジェクト	職業養成プロジェクト （教員）
FLPプロジェクト	その他